様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　７ 月 １０ 日現在

機関番号：３２６４９
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2019
課題番号：１５Ｋ０２７９８

研究課題名（和文）韓国の英語のデジタル教科書に関する調査と日本への示唆

研究課題名（英文）Research on English Digital Textbooks in Korea:Implication for Japan

研究代表者
カレイラ松崎　順子（Carreira Matsuzaki, Junko）

東京経済大学・全学共通教育センター・教授

研究者番号：４０４５４１８６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では，韓国の英語のデジタル教科書から日本はどのようなことを学べるかを検討するために，日本の同類のデジタル教材との比較を行った。その結果，韓国の英語のデジタル教科書は日本の同類のデジタル教材と比較すると，対話者の国籍および対話場所がすべて特定されており，コンテクストの特定化率が高いということが明らかになった。また，学年が上がるにつれて対話場面もより日常的な場面が多くなり，学習者である小学生の発達・認知・社会的段階を踏まえて制作されていることがわかった。さらに，語彙面においても日本の同類の英語のデジタル教材よりもバランスよく掲載されていることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究では，韓国の英語のデジタル教科書から日本はどのようなことを学べるかを検討するために，日本の同類のデジタル教材との比較を行った。その結果，グローバル化に向け英語のコミュニケーション能力を育成しようとするならば，コンテクストの特定化がなされているテキストや教材を学校で使用すべきであり，さらに，語彙においてもコンテクストにあった基礎的な語彙を何度も繰り返し使えるような英語のデジタル教科書を日本も作成していくべきであると示唆できる。

研究成果の概要（英文）：The enforcement of English education at elementary schools in Japan seemed to start relatively late among other countries in Asia. In particular, Korea started English education at elementary school in 1997. Also, English digital textbooks have been developed and widely used in Korea earlier than in other Asian countries. Thus, this study compared digital materials attached to English textbooks in Korea and Japan and showed what we can learn from English e-textbooks for elementary school students in Korea. The results showed (a) some of the same words were more repeatedly used in Korean digital textbooks than Japanese digital textbooks, (b) more basic words were used in Korean digital textbooks than that of the Japanese, and (c) the input in Korean digital textbooks is more contextualized and communicative, and they provide learners with input more systematically than that of the Japanese digital textbooks.

研究分野：英語教育

キーワード：韓国　英語教育　デジタル教科書　小学校

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９，Ｆ－１９－１，Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

韓国は収入の違いが教育機会の不平等を招くといういわゆる教育格差が大きな社会問題となっており，これらの問題を解決するために政府は積極的に Information and Communication Technology(ICT)を教育に取り入れてきた。特に，韓国はデジタル教科書などの ICT の教育分野への導入は世界一進んでいるといわれており，2018 年度には小中学校へのデジタル教科書の導入を検討していた。英語においてはその準備段階として，検定教科書のデジタル教材，すなわち e 教科書が KERIS（韓国教育学術情報院）のホームページ上からダウンロードし，使用できるようになっていた。

２．研究の目的

韓国の小中学校の英語のデジタル教科書の現状を調査し，デジタル教科書の効果とともに問題点などを明らかにしながら，今後日本はデジタル教科書をどのように英語の授業に導入していくべきかなど日本の小中学校の英語教育に重要な示唆・指針を与えていくことを本研究の目的とする。

３．研究の方法

韓国の英語のデジタル教科書の研究を大きく分けて以下のような 3 つの観点から行った。

研究１　日本の英語のデジタル教材との比較

カレイラ・執行・宮城（2016）

コンコーダンサーWordSmith version 5 を利用し，「ELEMENTARY SCHOOL ENGLISH3e-教科書」と「Hi, friends!1」の語彙を調べた。さらに，文脈がどの程度特定されているかを分析するために，伊東他（1994）の分析方法をもとに，（1）発話当事者の国籍，（2）発話場所，および（3）発話の種類について分析した。

カレイラ・齊藤・執行(2017)

韓国で最も使用されている小学 3 年生用の e 教科書 3 冊『Elementary School English 3』，『Elementary School English 3』，『Elementary School English 3』と日本の小学 5 年生用の『Hi, friends! 1』 に付随したデジタル教材を分析対象にし， スクリプトの書き起こしを行った。

作成した 3 種類の韓国の e 教科書および『Hi, friends! 1』のスクリプトを WordSmith version 5 を使用して，延べ語数（Tokens），異なり語数（Types），および Types を Tokens で割った値を標準化した値（S-TTR）を算出した。つぎに，テキストマイニングソフト Text Mining Studio5.1 を使用して名詞・動詞・形容詞を品詞別に調べた。さらに，出現頻度が多くなく上位に現れていない重要な語彙を見落とす可能性もあるため，補完類似度を用いて品詞別の特徴語の抽出を行った。

カレイラ・齊藤・執行(2018)

韓国で最も使用されている小学 3 年生用の e 教科書 3 冊『Elementary School English 3』，『Elementary School English 3』，『Elementary School English 3』と日本の小学 5 年生用の『Hi, friends! 1』 に付随したデジタル教材のスクリプトの書き起こしを行った。伊東他（1994）の分析方法をもとに，（1）対話者の国籍，（2）対話場所，および（3）発話の種類について分析を行った。

執行・カレイラ・舩田・村上(2018)

韓国の小学校で使用されている『Elementary School English 3』，『Elementary School English 4』，『Elementary School English 5』，『Elementary School English 6』に付随した e 教科書の発話，発話場所，発話者について書き起こしを行った。さらに，対話者の国籍・対話場面・ターンおよび発話の種類について分類を行った。

研究 2「スマートスクール」推進地区に指定されている世宗特別自治市における調査

カレイラ・カン（2017）

「スマートスクール」推進地区に指定されている世宗特別自治市では積極的にデジタル教科書をはじめとしたスマート教育を推進している。具体的には市内の小中学校のスマート教育を支援するため，Smart-アイというサイトを提供し，教科書の各単元にあわせた授業の資料（EBS など）へのリンクや児童が自宅で学べるように，様々な有料の学習動画のコンテンツなどを無料で提供している。カレイラ・カン（2017）ではスマート教育が学習意欲を促進するものであったかどうかを調べるために，世宗特別自治市の公立小学校に通う小学 5・6 年生 85 名に ARCS 動機づけモデルによる学習者評価を行った。

研究 3　英語のデジタル教科書に関するゲームの観点からの調査

カレイラ・金（2017）

韓国の検定教科書の一つであるチョンジェ教科書の ELEMENTARY SCHOOL ENGLISH4 および 5 のｅ教科書を使用しているソウル郊外の公立小学校に通う小学４・５年生を対象にｅ教科書およびそれに搭載されているゲームに関して ARCS 動機づけモデルの観点から学習者評価を行った。

４．研究成果

研究１　日本の英語のデジタル教材との比較

カレイラ・執行・宮城（2016）

韓国の小学 3 年生の英語の教科書に付随したデジタル教材「ELEMENTARY SCHOOL ENGLISH3 e-教科書」と日本の外国語活動のテキストである「Hi, friends!1」のデジタル教材を語彙およびコンテクストの面から調べた結果，以下のことが明らかになった。第一に，「ELEMENTARY SCHOOL ENGLISH3 e-教科書」の S-TTR の値は「Hi, friends!1」よりも低かったことから，「ELEMENTARY SCHOOL ENGLISH3 e-教科書」のほうが同じ語彙を何度も繰り返していることが明らかになった。第二に，発話当時者の国籍については，「ELEMENTARY SCHOOL ENGLISH3 e-教科書」はほとんど不明がなくコンテクストが把握しやすい一方，「Hi, friends!1」では約 3 割が不明であり，コンテクストを特定化しにくいことが明らかになった。発話場所においても「ELEMENTARY SCHOOL ENGLISH3 e-教科書」では，若干の偏りはあるものの学校，戸外，家の場面が万遍なく登場し偏りがなかった。一方，「Hi, friends!1」では対話がどのようなコンテクストで起こっているかの場面設定がわかりにくかった。

カレイラ・齊藤・執行(2017)

韓国の小学 3 年生対象の 3 種類の英語の e 教科書および日本で現在使用されている『Hi, friends!1』の語彙を品詞別に分析を行った結果，『Hi, friends!1』では食べ物の話題や色の表現に偏っているにもかかわらず，韓国の e 教科書よりも語彙の種類が多く，一方で，語彙の繰り返しが少ないことが明らかになった。さらに，動詞に関しては最も多用されていた動詞は like であり，基礎的な動作動詞があまり使われていなかった。以上のことから小学校の英語のデジタル教科書では，児童にわかりやすい動作動詞などをもっと提示し，さらに，児童が自学自習できることを念頭に置きながら，様々な場面の語彙を偏ることなく繰り返し聞かせることができるように作成すべきであると示唆できるであろう。

カレイラ・齊藤・執行(2018)

第一に，韓国の英語のデジタル教科書は，対話者の国籍および対話場所に関して不明なものがほとんどなく，文脈の特定化がなされているため，児童が学習しやすい教材になっているといえる。よって，日本においても対話者の国籍・対話場所に関して不明なものをなくし，児童が文脈の特定化が容易にできるような英語のデジタル教科書を作成すべきであると示唆できる。第二に，場面数，対話数，ターン数においては，どの e 教科書においても 1 対話内のターン数は一定の傾向にあり，対話のやり取りが定型化されていることが明らかになった。日本の『Hi, friends!1』ではターン数・対話数など定型化されておらず，教師は使いづらく，児童も学習しにくいと思われる。ゆえに，日本において今後英語のデジタル教科書を作成する際には，場面数・対話数・ターン数などにも注意を払って作成する必要があるといえる。

執行・カレイラ・舩田・村上(2018)

韓国が開発した 小学 3 年生から小学 6 年生までの e 教科書の内容をコンテクストの特定化と対話構造から分析した。その結果，以下のことが明らかになった。全ての聞く部分の対話には，明確な場面と対話者がおり，どのような目的で対話を行っているかを学習者が一目で理解できるようになっていた。また，同じような対話が様々な場面・対話者で繰り広げられており，インプットの量はかなり豊富であった。どの課においてもセクションの構成は同様であり，学習者が学習目的を理解しやすくなっていた。さらに，対話構造は学習者の認知的社会的発達に沿って体系的に長く複雑になっていた。これらのことが学習者の学習意欲を引き出し，自律的に学習することを促し，さらにコミュニケーション能力を促進することにつながると思われる。

研究 2「スマートスクール」推進地区に指定されている世宗特別自治市における調査

カレイラ・カン（2017）

質問紙調査の結果，約 8 割の児童がスマート教育を「注意」，「関連性」，「自信」，および「満足感」の観点から高く評価しており，さらに，ほとんどの児童が紙での学習よりもスマート教育のほうがいいと回答していた。

研究 3　英語のデジタル教科書に関するゲームの観点からの調査

カレイラ・金（2017）

調査の結果，8 割以上の児童が英語のｅ教科書を「注意」，「関連性」，「自信」，および「満足感」の観点から高く評価をしていた。さらに，自由記述式の回答には「楽しい」という意見が最も多く書かれており，特に，「注意」という観点からｅ教科書を評価しているのが明らかになった。さらに，8 割の児童が紙の教科書よりもｅ教科書のほうを好むことがわかった。一方，ゲームに関しても参加した 8 割以上の児童が「関連性」，「注意」，「自信」，および「満足感」の観点から高く評価をしており，さらに，1 名以外の全員の児童がｅ教科書にゲームが入っていると勉強がよくできると思っていることが明らかになった。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計8件（うち査読付論文　6件／うち国際共著　2件／うちオープンアクセス　7件）

１．著者名 カレイラ松崎順子・ 齊藤涼子・ 執行智子	４．巻 18
２．論文標題 韓国の小学3年生対象の英語のe教科書および『Hi, friends!1』のデジタル教材の 品詞別の語彙分析	５．発行年 2017年
３．雑誌名 教科書フォーラム ： 中研紀要	６．最初と最後の頁 2-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 カレイラ松崎順子・ 齊藤涼子・ 執行智子	４．巻 142
２．論文標題 韓国の小学3 年生対象の英語のe 教科書の内容分析	５．発行年 2018年
３．雑誌名 東京経済大学人文自然科学論集	６．最初と最後の頁 41-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 執行智子 ・カレイラ松崎順子 ・舩田まなみ ・ 村上千春	４．巻 18
２．論文標題 韓国の小学生対象の英語のe教科書の内容分析	５．発行年 2018年
３．雑誌名 JES Journal	６．最初と最後の頁 150-165
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.20597/jesjournal.18.01_150	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 カレイラ松﨑順子・金庭希	４．巻 10号
２．論文標題 韓国の小学校の英語のe教科書およびゲームに関する予備調査	５．発行年 2017年
３．雑誌名 東京未来大学紀要	６．最初と最後の頁 203-210
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.24603/tfu.10.0_203	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 執行 智子・カレイラ松崎 順子	4．巻 9
2．論文標題 『Hi,friends!』デジタル教材の分析 ― コンテクストの特定化と対話構造 ―	5．発行年 2016年
3．雑誌名 東京未来大学紀要	6．最初と最後の頁 63-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.24603/tfu.9.0_63	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 ―

1．著者名 カレイラ松崎順子・執行智子・宮城まなみ	4．巻 16
2．論文標題 韓国と日本の小学生対象の英語の教科書に付随するデジタル教材の比較	5．発行年 2016年
3．雑誌名 小学校英語教育学会誌	6．最初と最後の頁 68-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.20597/jesjournal.16.01_68	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 ―

1．著者名 カレイラ松崎 順子・カン ヨンドン	4．巻 第6回年次大会
2．論文標題 世宗特別自治市におけるスマート教育の現状調査	5．発行年 2017年
3．雑誌名 日本デジタル教科書学会第6回年次大会	6．最初と最後の頁 55-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.20755/jsdtpr.6.0_55	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 カレイラ松崎順子	4．巻 141
2．論文標題 韓国の中学校英語科の教育課程の変遷	5．発行年 2017年
3．雑誌名 東京経済大学人文自然科学論集	6．最初と最後の頁 3-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 ―

〔学会発表〕　計19件（うち招待講演　0件／うち国際学会　15件）

1．発表者名 Junko Matsuzaki Carreira
2．発表標題 Analysis Of English Digital Textbooks For Korean Elementary School Students
3．学会等名 2019 Clute International Conferences Maui Hawaii | Education (ICE)（国際学会）
4．発表年 2019年

1．発表者名 Junko Matsuzaki Carreira
2．発表標題 Analysis of English Digital Textbooks for Korean Elementary School Students: From the Perspectives of Vocabulary
3．学会等名 The International Journal of Arts and Sciences Malta Conference（国際学会）
4．発表年 2019年

1．発表者名 Junko Matsuzaki Carreira
2．発表標題 The Widening Socioeconomic Gap in Korean Students’ English Achievement
3．学会等名 The 24th Global Conference on Business and Finance（国際学会）
4．発表年 2018年

1．発表者名 Junko Matsuzaki Carreira, Tomoko Shigyo, Ryoko Saito
2．発表標題 Vocabulary Analysis OF Digital Materials of Hi, Friends!1 In Japan and English E-textbook in Korea: According to parts of Speech Achievement
3．学会等名 2018 Hawaii International Conference on Arts & Humanities（国際学会）
4．発表年 2018年

１．発表者名 Junko Matsuzaki Carreira, Tomoko Shigyo
２．発表標題 What can we learn from English e-textbook in Korea?
３．学会等名 53rd RELC International Conference（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Junko Matszuzaki Carreira
２．発表標題 A Corpus Analysis of Digital Materials Attached to English Textbooks for Elementary School
３．学会等名 The Asian Conference on Education & International Development 2016（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Junko Matsuzaki Carreira, Youngdon Kang
２．発表標題 Evaluation of Smart Learning in Sejong Special Autonomous City
３．学会等名 the International Journal of Arts & Sciences’ (IJAS) International Conference for Education（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Junko Matsuzaki Carreira
２．発表標題 Present Situation of English Digital Textbooks in Elementary School
３．学会等名 the 2017 Hawaii International Conference on Arts & Humanities（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 カレイラ松崎順子・執行智子・宮城まなみ
２．発表標題 韓国と日本の小学生対象の英語の教科書に付随するデジタル教材の比較
３．学会等名 第15回小学校英語教育学会（JES）広島大会
４．発表年 2015年

１．発表者名 Junko Matsuzaki Carreira
２．発表標題 A Corpus Analysis of Digital Materials Attached to English Textbooks for Elementary School Students in Korea and Japan
３．学会等名 The Second Asian Conference on Education & International Development（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 カレイラ松崎順子・JungHee Kim
２．発表標題 韓国の小学校の英語のe教科書のゲームに関する予備調査
３．学会等名 日本英語教育学会第46回年次研究集会：言語テストと高大接続
４．発表年 2016年

１．発表者名 Junko Matsuzaki Carreira・Tomoko Sigyo
２．発表標題 Analysis of Input in Digital Textbooks for Elementary Foreign Language Learning: Elementary School English 3 and Hi, Friends! 1 and 2
３．学会等名 Singapore 2016: Asian American Conference for Academic Disciplines（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Junko Matsuzaki Carreira・Tomoko Sigyo
２．発表標題 Digital Materials Attached English Textbooks for Korean Elementary School Students: Comparison with Hi, friends! 1
３．学会等名 London 2015: Anglo-American Conference for Academic Disciplines（国際学会）
４．発表年 2015年

１．発表者名 Junko Matsuzaki Carreira・ Youngdon Kang
２．発表標題 Evaluation of Smart Learning in Sejong Special Autonomous City
３．学会等名 Toronto 2016: Int'l Conference for Academic Disciplines（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Junko Matsuzaki Carreira
２．発表標題 English Education Using ICT IN Korea
３．学会等名 the 18th Annual Hawaii International Conference on Education（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Junko Matsuzaki Carreira
２．発表標題 Educational Inequality and English Education in Korea_
３．学会等名 AMERICAN SOCIETY OF BUSINESS AND BEHAVIORAL SCIENCES 27th ANNUAL CONFERENCE（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 カレイラ松崎順子・執行智子
２．発表標題 韓国の小学3年生対象の英語のe教科書および『Hi, friends!1』のデジタル教材の品詞別の語彙分析
３．学会等名 第163回次世代大学教育研究会
４．発表年 2020年

１．発表者名 Junko Matsuzaki Carreira
２．発表標題 English Libraries for Children in Korea
３．学会等名 ISER INTERNATIONAL CONFERENCE on Seoul（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 カレイラ松崎順子
２．発表標題 韓国のこども英語図書館の現状
３．学会等名 Okinawa JALT Summer Language Teaching Symposium
４．発表年 2019年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考